

野洲川MIZBEステーションの進捗状況について

2026.01.15

滋賀県立高等専門学校構想推進本部会議

1. 制度説明

MIZBEステーションとは

- 平常時における、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーション
- 災害時と平常時両面の機能を併せ持つ「MIZBEステーション」に進化させ、地域活性化を推進

«MIZBEステーションのポイント»

①滞在のしやすさ

- ・駐車場やトイレ、テーブル、ベンチ等の休憩施設などの施設が充実



広い駐車場



防災啓発コーナー



水防多目的センター

自然体験活動・各種イベント例



②地域連携

- ・地域活性化、賑わいの創出に寄与するレクリエーション施設、地域振興施設、文化・教養施設、民間施設などが水防センターに併設または隣接

例)



運動・教室スペース



武道交流館



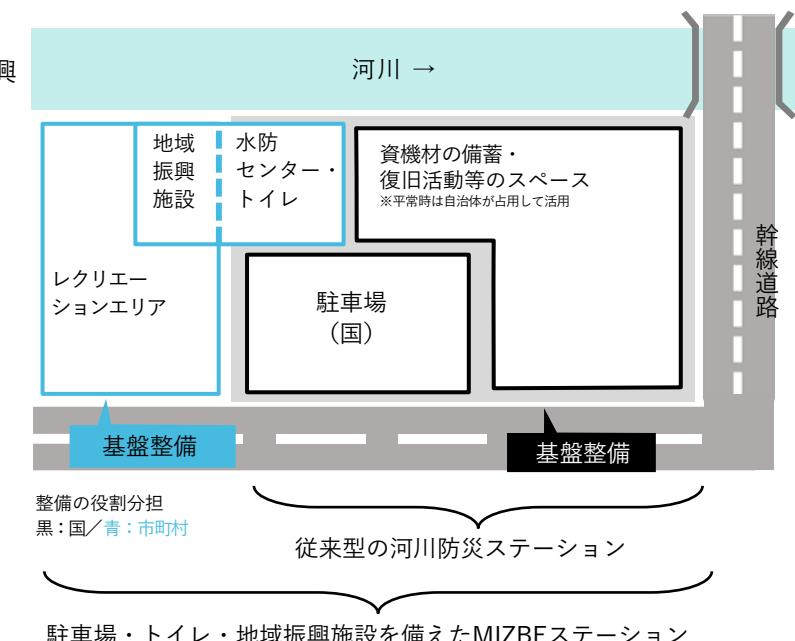
民間商業施設と隣接

③アクセスのしやすさ

- ・幹線道路に面するなどアクセスしやすい立地環境



写真：国土交通省HP https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/pdf/mizbe-station.pdf



MIZBEステーションの整備イメージ

1. 制度説明

河川防災ステーションの役割

河川防災ステーションは、災害時（洪水等の発生時）における緊急復旧活動の拠点となる施設です。市町村等が水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターや災害時に参集する水防団員、国、市など関係機関の担当者が使用する駐車場、復旧活動を行う重機の運用に必要な施設を整備し、堤防決壊など、被災箇所の復旧に必要な資材を備蓄します。

<災害時>

- 被災箇所の復旧工事のための材料備蓄
- 排水ポンプ車など災害対策車両、防災ヘリの拠点
- 水防活動の拠点（水防団）



<平常時>

- 地域のコミュニティースペースとして活用
- 水防活動の訓練などに利用
- 防災学習の場や川の情報発信拠点として水防センターを活用



水防団員による水防活動（排水作業）



水防団員による水防活動（月の輪工法）

<施設整備について>

- **水防センター**：水防活動時の拠点（司令部、待機場）、水防資材庫
- **駐車場**：水防活動時等の作業員の駐車場。
- **ヘリポート**：ヘリコプターの緊急輸送時の離着陸
- **車両交換場所**：資材運搬車両、重機の回転場、備蓄資材搬出の作業ヤード
- **車庫**：ポンプ車、照明車の車庫として使用



<備蓄資材>

- **土砂**：仮復旧堤防、堤防復旧に使用
- **根固めブロック**：復旧初期に必要となる決壊箇所の羽口工に使用
- **雑割石**：1次締切（荒締切）に使用
- **鋼矢板**：2次締切（鋼矢板二重締切）に使用

2. 目指すところ

野洲川MIZBEステーションは、野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画、市の総合計画や滋賀県立高等専門学校の整備などの背景を踏まえ、野洲川MIZBEステーションができることで、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなるために、『市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む「学び」の拠点』を目指すところとします。



市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点

①出会い

野洲川と多様な人に出会い学ぶ

- 市民と野洲川との接点となる場所
- 市民同士の出会い・交流・賑わいを通し学び合う場所
- 外の人が野洲を訪れ、野洲を知る、野洲の人・自然と交流・楽しみ・学びを得る場所

②自然

野洲川の自然に学ぶ

- 川と森の自然を体感し、学び、育む場所
- 自然・環境・生物などの市民活動の拠点となり人材育成、学び合う場所

③防災

自然の営みと防災を学ぶ

- 森の管理、川の安全・安心、身近な防災を学ぶ場所
- 河川防災ステーション・地域の防災教育拠点

野洲川MIZBEステーションができることで

子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる

3. 施設配置

整備する施設は、MIZBEステーションとしての防災機能確保を前提に、市民・団体・検討部会等の意見を踏まえ、それぞれの場の特性を活かしたエリアを配置しました。

4. スポーツ・賑わいグラウンドエリア

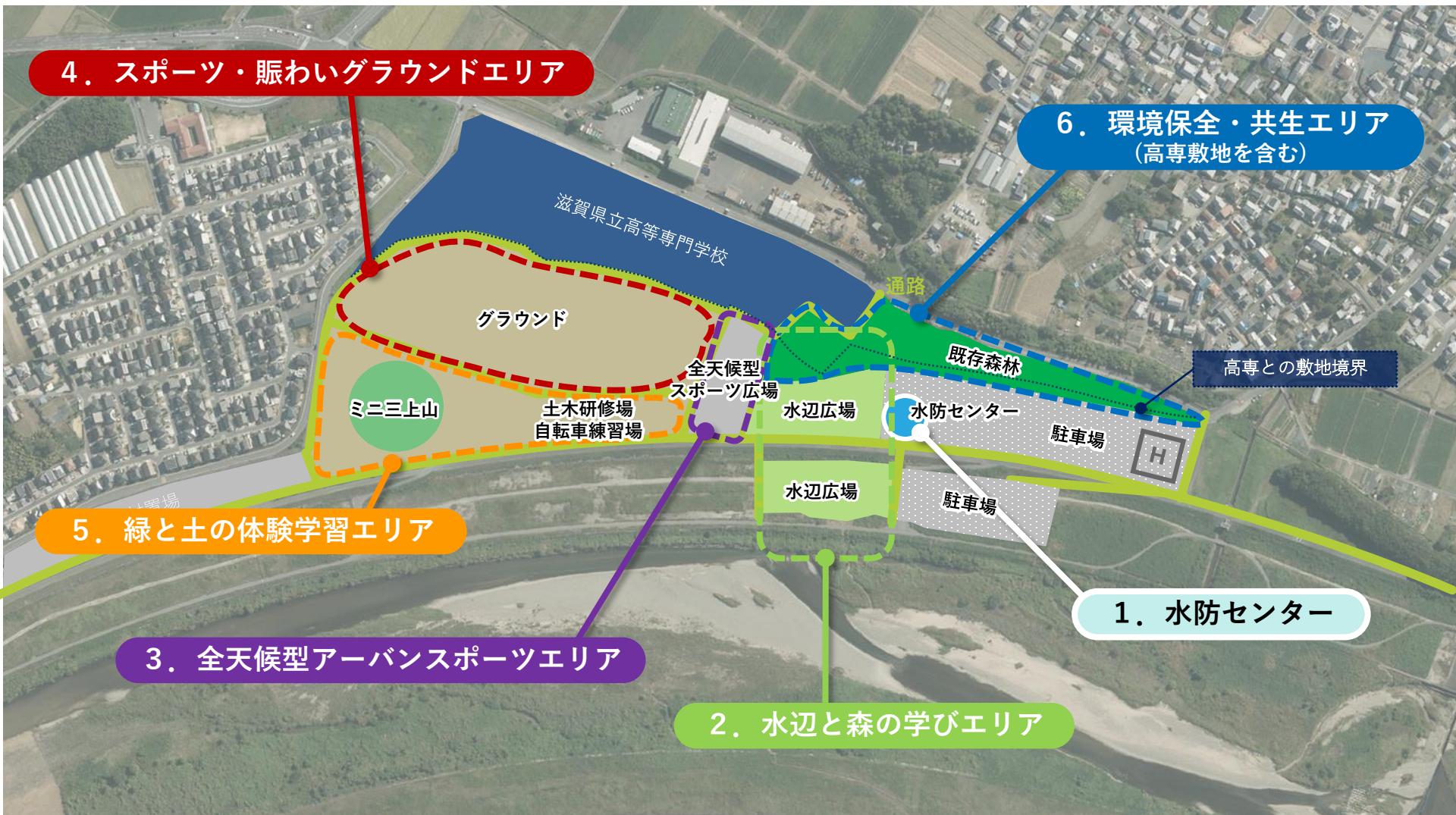
6. 環境保全・共生エリア (高専敷地を含む)

5. 緑と土の体験学習エリア

3. 全天候型アーバンスポーツエリア

2. 水辺と森の学びエリア

1. 水防センター



4. エリア別の整備内容

1. 水防センター

方針

さまざまな人・団体等が集う活動の拠点、非常時には水防拠点としての役割を担う、MIZBEの学びの拠点施設



【利用イメージ】

野洲川MIZBEステーションの主要施設。交流や学びの場として賑わいを創出するとともに、水防時の活動拠点や備蓄機能を担う。

【設計建設における要求水準ポイント】

- ・ 本ステーションの拠点施設としてデザイン性のある外観
- ・ 地域活動など様々な利用目的に対応するフレキシブルな構造

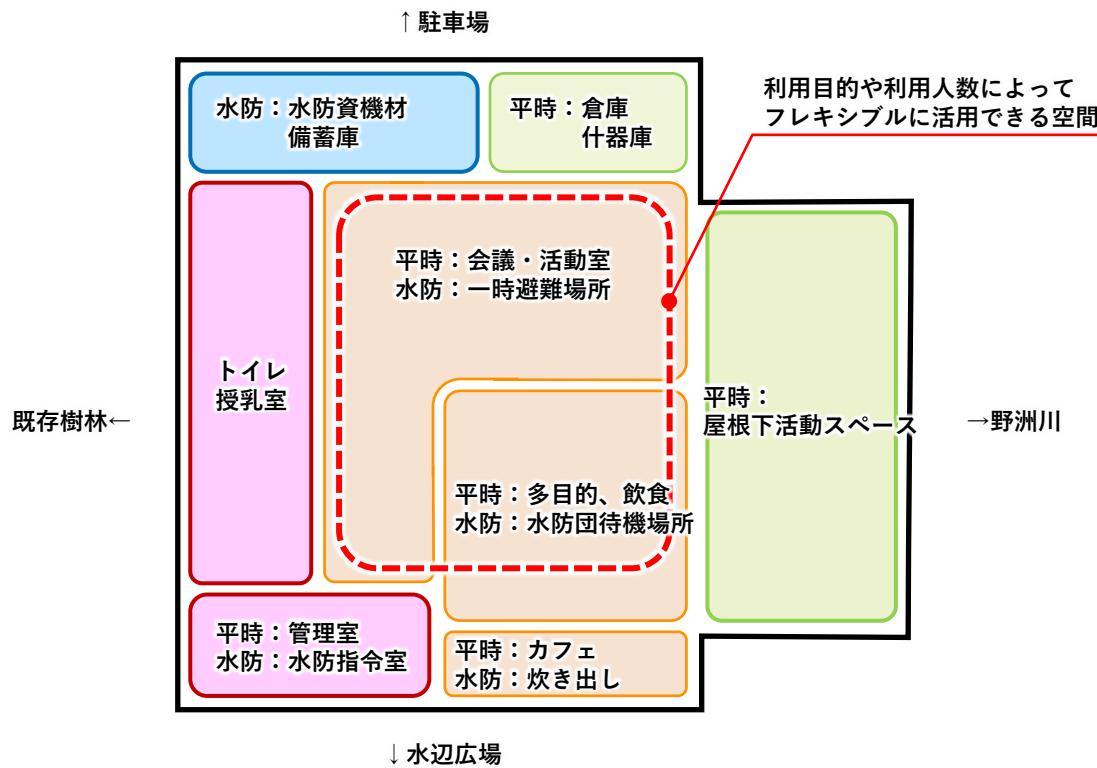
【フロア構成案】

室・機能名		規模感	平常時の利用用途
災害時	平常時		
水防司令室	常駐管理室	20.0m ²	MIZBEステーション全体の管理、受付、インフォメーションなど
水防資機材	—	15.0m ²	
備蓄庫	—	35.0m ²	
水防団待機室	多目的・飲食スペース	80.0m ²	MIZBEステーション利用者が自由に使えるスペース。 地域の活動やイベントの会場、持ち込みを含む飲食の場
一時避難場所	会議室・活動室	120.0m ²	貸会議室。可動式壁を採用するなどして、様々な用途に対応する
炊き出し	カフェスペース	10.0～30.0m ² 程度	テイクアウト形式
男性トイレ	男性トイレ	17.0m ²	
多目的トイレ	多目的トイレ	10.0m ²	
女性トイレ	女性トイレ	17.0m ²	
授乳室	授乳室	7.0m ²	
—	倉庫	24.0m ²	芝刈り機や掃除用具、テントなどのイベント用品等を収納
—	什器倉庫	20.0m ²	室内用の長机やイスを収納
—	屋根下活動スペース	130.0m ²	「多目的・飲食スペース」との一体利用や雨天時の一時避難場所として利用。 小中学校2クラス分程度の人数が利用できる広さを確保

4. エリア別の整備内容

1. 水防センター

フロアレイアウト（イメージ）



■諸室の条件

- 学校行事などにも対応した、100人程度の規模の広い室内スペース
- 広い空間を必要に応じて仕切ったり屋外と一体的に使ったりと柔軟につかえるフロア構成
- 外からも利用でき、他のエリア利用者も使えるトイレ
- 授乳スペースやおむつ替えスペースがある
- 屋外活動等の際に活用できる手洗い足洗機能を外構部に整備
- 自由に使えるWi-Fiがある
- 飲食機能がある
- 水防団待機室として75m²確保（必須条件）

■備品（一例）

- テーブル、椅子が十分にある
- プロジェクター、スクリーン、マイクがある
- 放送設備や緊急気象情報の表示板がある
- デザインされたサイン計画

■外観デザイン例

左写真：千葉公園情報センター（千葉県千葉市）
右写真：学びの里「めいりん」（福井県大野市）

4. エリア別の整備内容

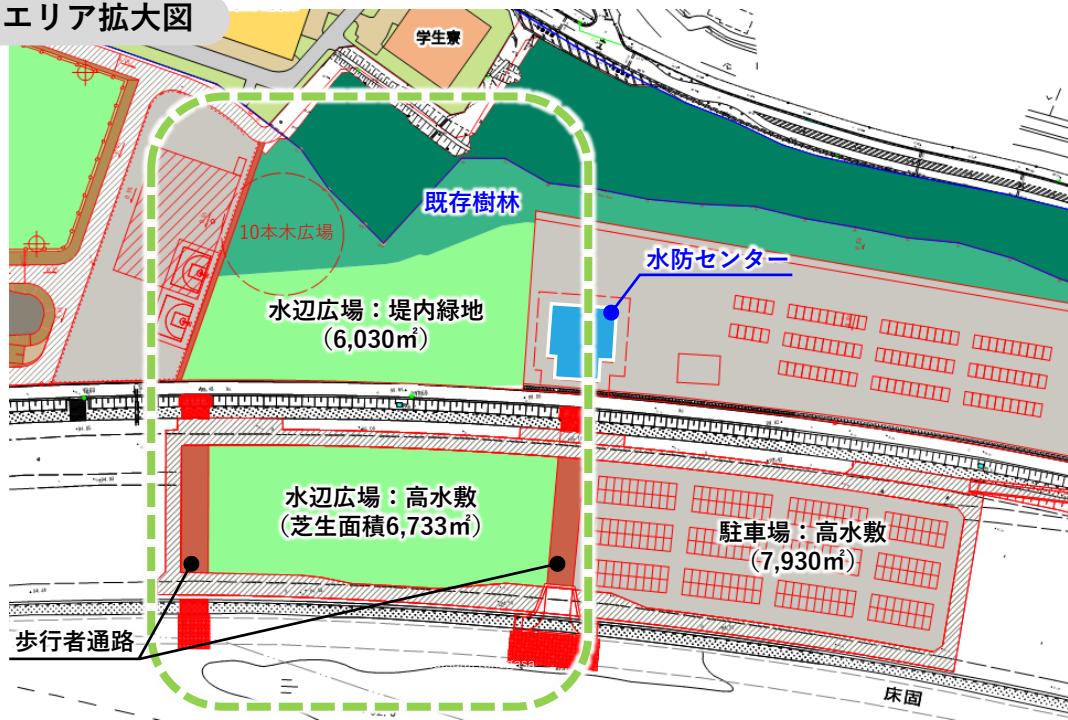
2. 水辺と森の学びエリア

方針

森・広場・川の一体的な空間を活かし、自然との触れ合い、環境や防災について実践的に学べるプログラム等を実施し、野洲川の自然を活かして学ぶ



エリア拡大図



【利用イメージ】

水辺広場（堤内緑地） 既存樹林と河川敷を接続する緑地空間。河川空間ならではの活動の場

水辺広場（高水敷） イベントやBBQに利用できたり、地域交流の活性化や野洲川の親水性を高める活動の場

駐車場（高水敷） 芝生広場でのイベントや水辺レクリエーションの利便性の向上を図る

【設計建設における要求水準ポイント】

- 両広場とも芝生、駐車場はアスファルト舗装とする
- 既存樹林から河川までを一体的に利用できる空間整備を行う
- 水辺広場（高水敷広場）には河川にアクセスしやすいよう舗装された通路を設ける

【整備内容】

- 芝生広場
- 駐車場
- 歩行者通路

4. エリア別の整備内容

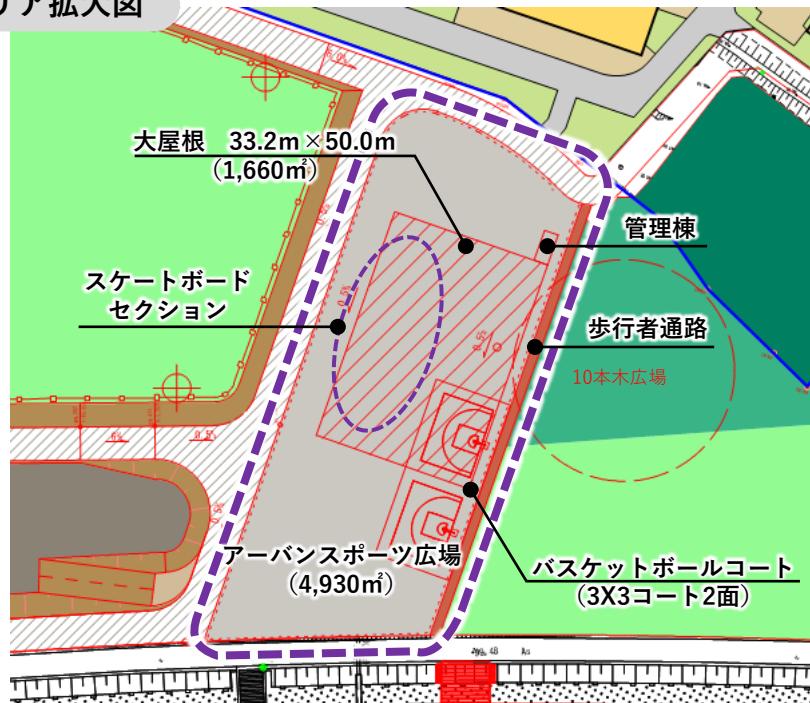
3. 全天候型アーバンスポーツエリア

方針

アーバンスポーツを中心にスポーツに親しみ学ぶと共に、全天候型の広場を活かしたイベント等の賑わい・学び・交流を通して学ぶ



エリア拡大図



【利用イメージ】

- 大屋根がある全天候型広場
- スケートボードや3×3バスケットなどのスポーツが日常的に楽しめる
- 天候に左右されないイベントの開催

【設計建設における要求水準ポイント】

- スポーツ設備は移動式のものとする
- 大屋根は雨や雪を防ぎつつ、自然光を取り込める構造とする
- 水辺広場との間に歩行者通路を設け、安全に利用できる導線を確保する

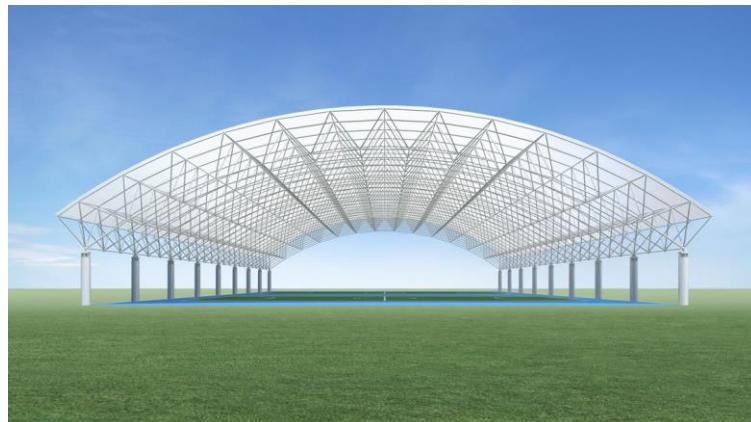
【整備内容】

- 大屋根
- アスファルト舗装
- スケートボードセクション
- バスケットボールコート
- 管理棟
- 外周フェンス
- 歩行者通路

2. エリア別の整備内容

3. 全天候型アーバンスポーツエリア

施設イメージ



大屋根イメージ

太陽工業（株）イメージ図

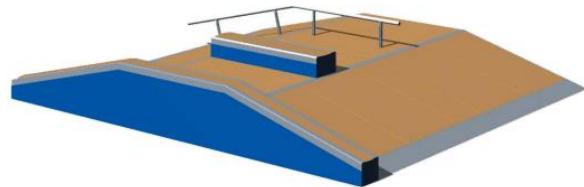


（株）ルイ高 製品カタログ
バスケットゴール（移動式）

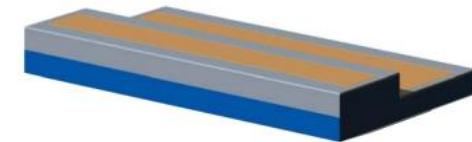
スケートボード
セクション（例）



フラットレール



バンクtoバンク複合



マニュアルパッド



クオーターランプ



バンク

（株）都村製作所 製品カタログ

4. エリア別の整備内容

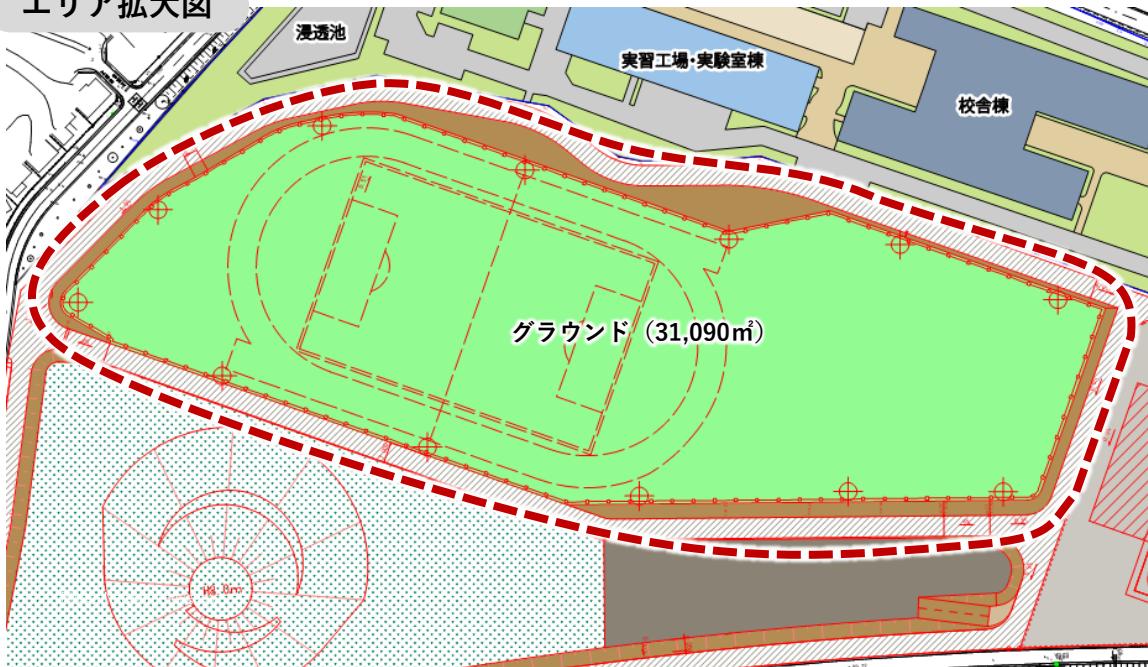
4. スポーツ・賑わい・グラウンドエリア

方針

広々としたグラウンドを活かし、様々なスポーツに親しみ学ぶと共に、広いフィールドを活かしたイベント等の賑わい・交流を通して学ぶ



エリア拡大図



【利用イメージ】

- 400mトラックとフットサルコート4面分程度の広さを有するグラウンド
- 照明を整備し、夜間の利用も可能とする
- 高専の体育授業でも利用する

【整備内容】

- 張芝
- 照明灯
- 外周フェンス

【設計建設における要求水準ポイント】

- グラウンド全面を芝生とする（備蓄土砂として利用するため、アスファルト舗装や排水施設は整備しない）
- 照明は近隣住宅地に対する光害対策をおこなう
- サッカー等の球技にも利用できるよう外周フェンスを設ける

4. エリア別の整備内容

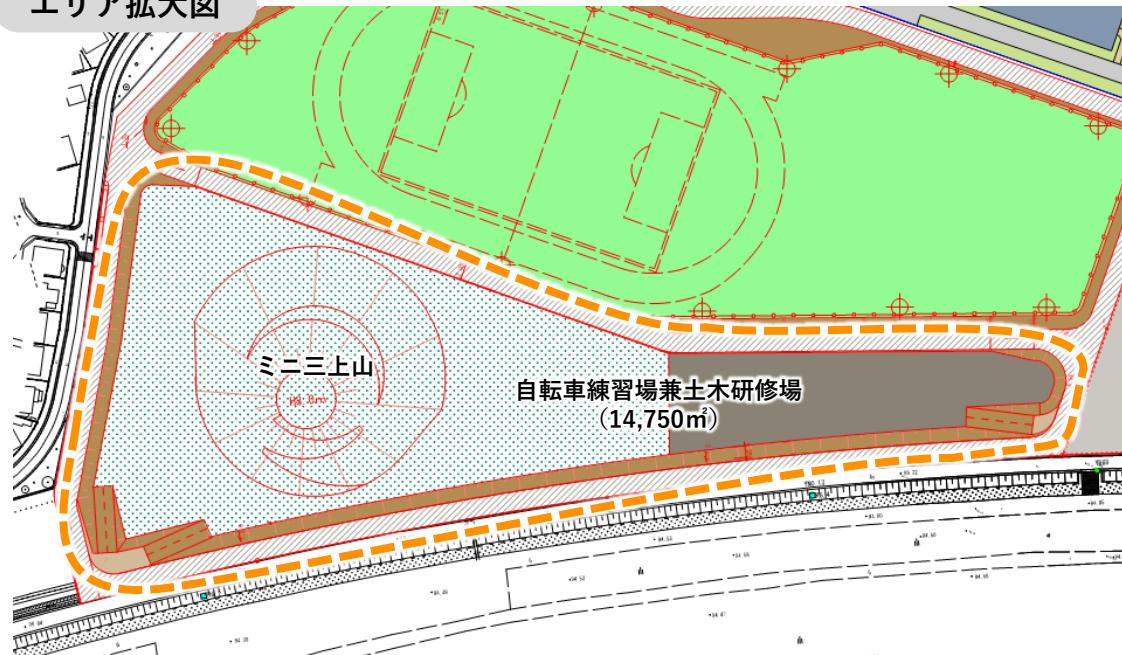
5. 緑と土の体験学習エリア

方針

土取場を活かし、ミニ三上山や土木研修場、スポーツ広場を使い、自然や防災について体験型で学ぶ



エリア拡大図



【利用イメージ】

三二三上山

自転車練習場兼土木研修場

既存のミニ三上山を再現したもの。登頂すると野洲川の景観を眺望できる広い空間で自由に走り回れる広場。自転車練習や、イベント活用など自由に利用できる備蓄土砂を活用した、重機類の操縦研修にも利用

【設計建設における要求水準ポイント】

- ミニ三上山の周辺を地被植物播種とする（ミニ三上山は国交省による造成及び張芝実施）
 - エリア右側は、未舗装のままとする（国交省による造成のみ）

【整備內容】 · 地被植物播種

4. エリア別の整備内容

※こちらは今ある自然を守り育てていくエリアであるため、MIZBEステーションの整備では手を入れません。

6. 環境保全・共生エリア（高専敷地を含む）

方針

高専と連携しながら、森の環境を守り・育み次世代に豊かな環境を受け継ぐと共に、保全・共生の活動や環境学習等を通して学ぶ



事例：チャイムの鳴る森、奈良県



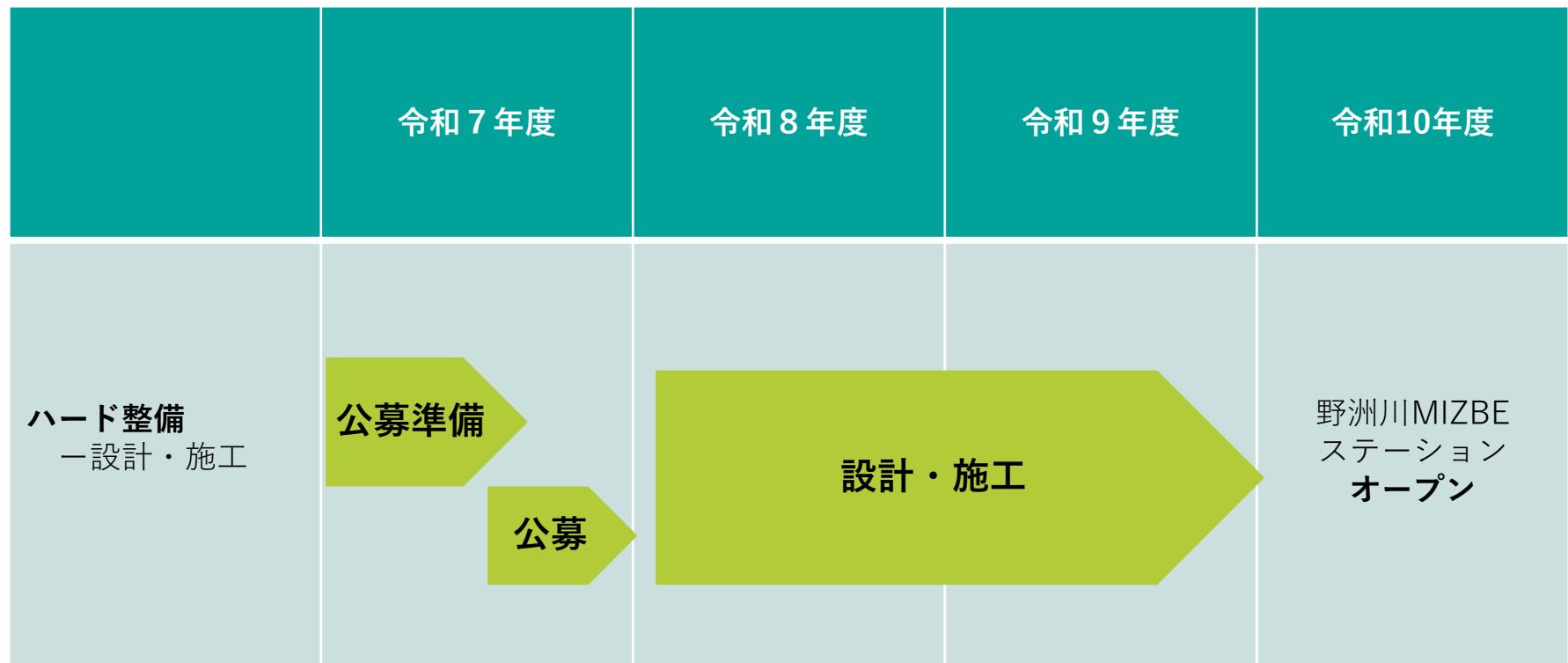
「やすがわMIZBE基地2025」水辺と森の探検スクール
やす緑のひろば 森の整備について学ぶ体験

使い方アイデア

- 憩いの場として誰でも気軽に自然に親しめる。
- こども主体で遊べる場所になる。
- 自然インストラクターによる自然体験など学びのプログラムが実施できる。
- NPO、企業等による、小中学生向けの動植物昆虫の生態・環境調査学習ができる。
- 自然保全団体が、中高生に森や河辺の整備体験を行う。
- 子育てサークルが、親子で森の観察会を行うことができる。
- 上記のような活動をしたい人が森を自由につかうことができる。

など

5.スケジュール

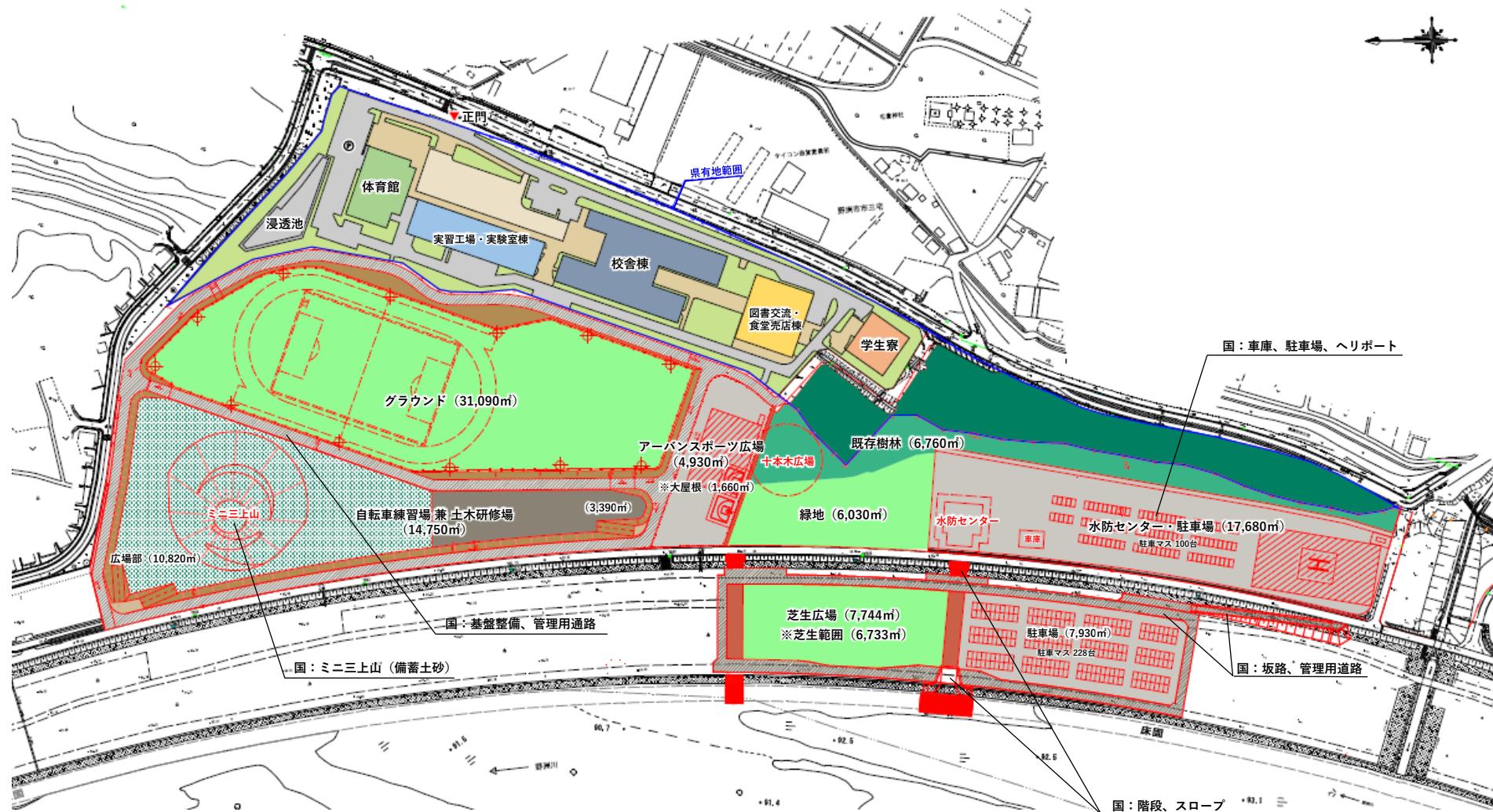


※工期短縮やコスト削減が実現可能な設計施工一体型での整備に向けての事業者募集公告
(令和8年1月～2月頃)を予定しています。

※管理・運営体制及び利活用の仕組み・体制については、今後検討を進めてまいります。

参考. レイアウト (案)

上面利用 (水防センター632m²)



※MIZBEステーションのレイアウトは現在検討中であるため、今後の検討により変更となる場合があります。

また、滋賀県立高等専門学校のレイアウトについても基本設計から引用しているものあり、内容が変更される場合があります。

引用元：滋賀県立高等専門学校施設概要（基本設計）について

https://shiga-kosen.usp.ac.jp/preparation/preparation-rp/doc/facility_overview-20250626.pdf

参考. 運営体制のイメージ

